

作成番号:0241

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-241

内容:インフル・コロナに対する mRNA ワクチン接種、同時 vs 順次で副反応に差があるか？

出典:Safety of Simultaneous vs Sequential mRNA COVID-19 and Inactivated Influenza Vaccines:
A Randomized Clinical Trial.

JAMA network open. 2024 Nov 04;7(11);e2443166. pii: e2443166.

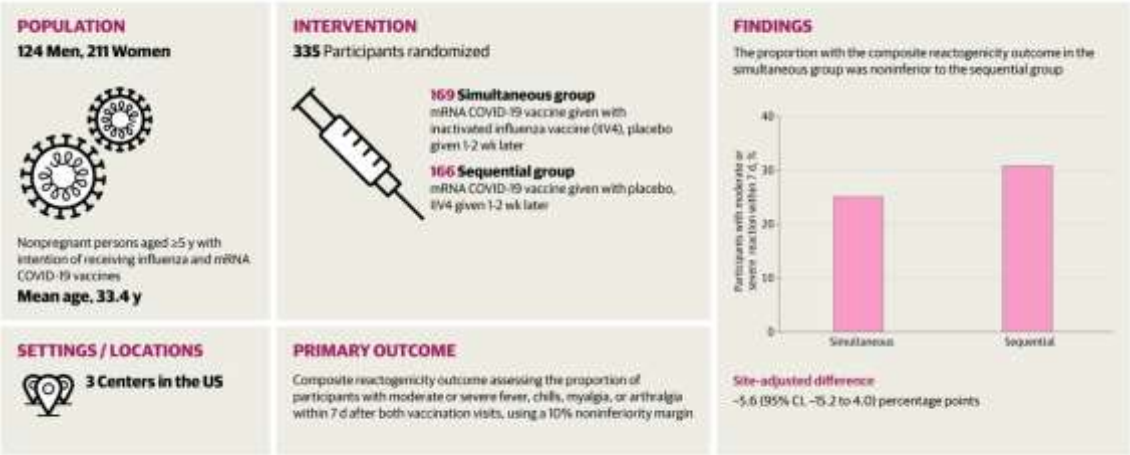
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39504023/>

副反応に関して、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する mRNA ワクチンを同時に接種した場合と順次接種した場合と比較した無作為化プラセボ対照臨床試験の結果を、米国・Duke University の研究者らが JAMA Network Open 誌 2024 年 11 月 6 日号に報告した。

2021 年 10 月 8 日～2023 年 6 月 14 日に米国の 3 施設で実施された。1 回目には、COVID-19 mRNA ワクチンと同時に 4 価インフルエンザ不活化ワクチン(IIV4)または生理食塩水を、反対側の腕に筋肉内投与した。1～2 週間後、2 回目として 1 回目に生理食塩水を投与された参加者には IIV4 を、1 回目に IIV4 を投与された参加者には生理食塩水を投与した。主要アウトカムは、1 回目・2 回目の接種後 7 日以内に、発熱、悪寒、筋肉痛、関節痛の中等度以上の症状がみられた参加者の割合とされた。335 人(平均年齢:33.4 歳、63.0%が女性)が、無作為に(同時併用群:169 人、順次併用群:166 人)割り付けられた。同時併用群における主要な複合接種後反応アウトカムの発生率は 25.6%(43 人)で、順次併用群(31.3%[52 人])に対し非劣性であった(補正後群間差: -5.6%ポイント)。その発生率は、接種回別にみても同様であった(1 回目接種後:23.8% vs.28.3%、2 回目接種後:3.0% vs.5.4%)。

今回の結果について、インフルエンザと COVID-19 の流行が予想される期間中に高いワクチン接種率を達成するための戦略として、ワクチンの同時接種を支持するものとしている。

RCT: Safety of Simultaneous vs Sequential mRNA COVID-19 and Inactivated Influenza Vaccines



Walter EB, Schlaudecker EP, Talbot KH, et al. Safety of simultaneous vs sequential mRNA COVID-19 and inactivated influenza vaccines: a randomized clinical trial. *JAMA Netw Open*. 2024;7(1):e2443166. doi:10.1001/jamanetworkopen.2024.43166